

森

永製菓では2008年から、
 チョコレートなどの売上の一
 部を力カオ生産地域の子ど
 もたちなどの支援として寄付する「1
 チョコ for 1スマイル（以下、1チョコ）
 という取組を行っています。マーケ
 ティング部に所属していた2023年は
 取組の15周年で、特別商品の発売が決
 まり、私がその担当になりました。

私自身、2児の母であることもあり、子どもとの社会課題に深い関心をもっていました。自分が仕事をするうえでのパース（志や存在意義）も「貧困をなくし、すべての子どもたちがワクワクできる社会をつくる」ということ。15周年企画には強い想いが膨らんでいきました。

そこで特別商品企画として、カカオ生産国の子どもたちにメッセージが送れる仕掛けを施し、さらに、暑い生産国の子どもたちにも送れるよう、溶けないベイクドタイプのチョコを採用しました。

ところが、この特別商品は売上目標の25%しか達成できず大失敗に。失敗の原因は、自分の想いの強さだけで突っ走ってしまったこと。想いも商品の魅力も、社内の営業担当者や小売店様、消費者の皆様に伝わらなかつたのです。この失敗から、想いがひとりよがりにならないよう言語化して伝える大切さと、周囲の客観的な意見に耳を傾け、協力しながら進めることの重要さを学びました。

自分の至らなさを反省する一方で、私のパーパスや想いは大切にしたいというモヤモヤした気持ちを抱えてい

ました。そのとき、社内のロールモデルとして尊敬し、時折相談していた他部署の先輩が「あなたは一人じゃない。社内には必ず同じ想いの人がいる。小さなつながりが、いつか大きな力になる」とかけてくれた言葉が救いになりました。

その後、1チヨ活動の一環としてガ
ーナの現地視察メンバーに選ばれた
児童労働を目の当たりにし、力カオ生
産者の想いを直接聞いたことで、1チヨ
活動や自分のパースの意義を改めて

実感。視察期間中、同行した他部署のメンバーとも日々意見交換しました。失敗からの学びを活かし一人の想いだけではなく、みんなで協力しながら何かできないかと考えていたのです。メンバーの一人が「1チヨコ for 1スマイルつて、実は1チヨコ for ALLスマイルだよね。チヨコに関わるすべての人を笑顔にしたい」と言った言葉が心に残りました。

帰国後、その言葉をヒントにできることを思案中に、食育活動として学校

への出張授業などの活動を行っている
社会貢献グループに異動になりました。
そしてつくったプログラムが1チヨコを
テーマにした「未来ラーニング×チヨコレ
ートでSDGsを学ぶ」です。現在小
学4〜6年生を対象に実施しています。
大失敗の経験が1チヨコの活動をも
っと良くしようという原動力にもなり、
今実現できています。自分のパワースが
揺らがなければ、たとえ一度失敗して
も他の形でやり直せると信じています。

失敗を反省することは大事。

でも、挑戦に込めた想いは大切に続けていい

◀ ガーナ現地視察の様子

森永製菓コーポレートコミュニケーション部
社会貢献グループマネジャー

植竹麻衣子さん

うさたけ・まいこ ●森永製菓コーポレートコミュニケーション部社会貢献グループマネージャー、森永エンゼルミュージアム MORIUM (モリウム) 館長。
同社の菓子部門で関西エリア初の営業担当となった後、結婚・出産を経て2児の母となり、社内で初のママ営業担当を経験。営業部と菓子マーケティング部を行き来しながら、2024年度より現職。